

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」急性期活動実習(BHELP)を実施しました (2022/2/26)

テーマ：日本災害医学会 地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース (BHELP)

場 所：Web 研修 (ホストは東北大学災害科学国際研究所、宮城県仙台市)

2022年2月26日(土)、東北大学病院「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」の一環として、第13回 BHELP 標準コース web コースを開催しました。東北地方を中心とする保健医療従事者(医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、事務職員)、行政職員ら24名が受講し、日本全国から28名のインストラクターが講師として参加しました。佐々木宏之准教授(災害医療国際協力学分野)がコースコーディネーターとして運営に携わりました。

日本災害医学会 BHELP (Basic Health Emergency Life Support for Public) 標準コースは、災害発生直後の緊急避難場所・指定避難所の設営・運営を被災者の生命、健康維持の観点からサポートできる人材を育成するためのコースです。災害時の避難者のなかには多くの傷病者、要配慮者が存在します。保健医療福祉の観点からどのようにトリアージし、サポートし、外部機関につなげればよいか、座学やグループワークを通して概念、スキルを学習します。コロナ禍によって web コースが開発されたことで、受講生、講師とも勤務地・居住地から新型コロナ感染を心配せずに研修に参加出来るようになりました。グループワークでは異なる職種の見点から、要配慮者への支援の在り方、外部との連携について熱心な討論がくり返されました。

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」では年間を通じ、災害保健医療に関するさまざまな講演、実習を実施しています。本年度プログラムは3月12日(土)の市民公開シンポジウム兼災害メンタルケア実習(web開催、受付中)、3月13日(日)の災害薬事実習(受付終了)を残すのみとなりました。まもなく2022年度の講義予定もホームページ(<https://www.dcmd.hosp.tohoku.ac.jp/curriculum/entry/>)に掲載予定です。オープン参加としてプログラム受講生以外の参加も受け付けています。

- BHELP標準コースの目標**
1. 災害対応に関する共通言語と共通原則がわかる
 2. 自らの生命を守るための行動が想定できる
 3. 被災した住民の生命を守るための行動がわかる
 - 1 傷病者の救護:CSCATTT
 - 2 要配慮者の救護:CSCAHHH
 - Health care Triage ヘルスケアトリアージ
 - Helping Hand 手を差し伸べる
 - Handover つなぐ
 4. 住民の健康維持に配慮した避難所の設営と運営の留意点がわかる。
 5. 要配慮者への体制整備(福祉避難所)の必要性がわかる

BHELP 標準コース到達目標



コース受講者と全国から参加したインストラクター (Zoom スクリーンショット)